Only One

北総教育事務所　特別支援教育通信

令和5年３月号　No.5

いよいよ年度末を目前に控え、一年間の締めくくりの時期になりました。自校での特別支援教育の取組について、PDCA サイクルで振り返り、次年度に向けての評価･改善を図っていただきたいと思います。そして、進級、進学の節目となるこの時期は、丁寧な引継ぎが大切です。特別な支援を必要とする児童生徒にとって、環境の変化は最も苦手な事柄の一つです。そうした時期に、継続的な支援を受けられるということは大きな安心材料となります。

◎各学校における特別支援教育　取組チェック

こんなことはありませんか。

誰にどのように引継ぎをしたかが不明確で、「引き継いだ」「受けていない」といった行き違いが生じた。

通常の学級在籍の児童生徒についての引継ぎをしておらず、適切な支援ができず、不登校になったケースも…。

学校間でどちらから連絡すればよいか分からず、引継ぎが不十分になった。

引継ぎの充実に向けて

1　校内での引継ぎ

特別支援教育コーディネーターを中心に、引継ぎの計画を立てることが望ましいです。特に、担任の交替がある場合は、**誰が誰に引き継ぐかを明確にする**ことが大切です。

- 学級担任は、個別のファイル等に個別の教育支援計画及び個別の指導計画の**評価（取組の様子）が記載**されているものが綴じられていることを確認するなど引継ぎの準備を行います。
- 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を**必ず活用**し、成育歴や障害による困難さ、指導目標や手立て、目標に対する達成状況、関係機関との連携等について確実に引き継ぐようにします。
- 学校全体の計画（週案等に記載）の中に位置付け、計画的に行うとともに、教職員間の情報共有を図ります。

2　学校間での引継ぎ

学校種により体制が異なり、環境が大きく変わるので、より丁寧な引継ぎが必要となります。引継ぎについては**保護者の同意を得る**とともに、**管理職とも引継ぎの方法を確認**しながら、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用して行います。**引き継ぐ側が主体**となって行います。特に困難さを示した具体的なエピソードがあると共通理解が促進されます。

特に、中学校３年生については両計画を活用して、**進学先への確実な引継ぎ**をすることが大切です。進学後に支援が適切に引き継がれずに、困難さがより顕著に表れることがあります。

引継ぎにおける留意点

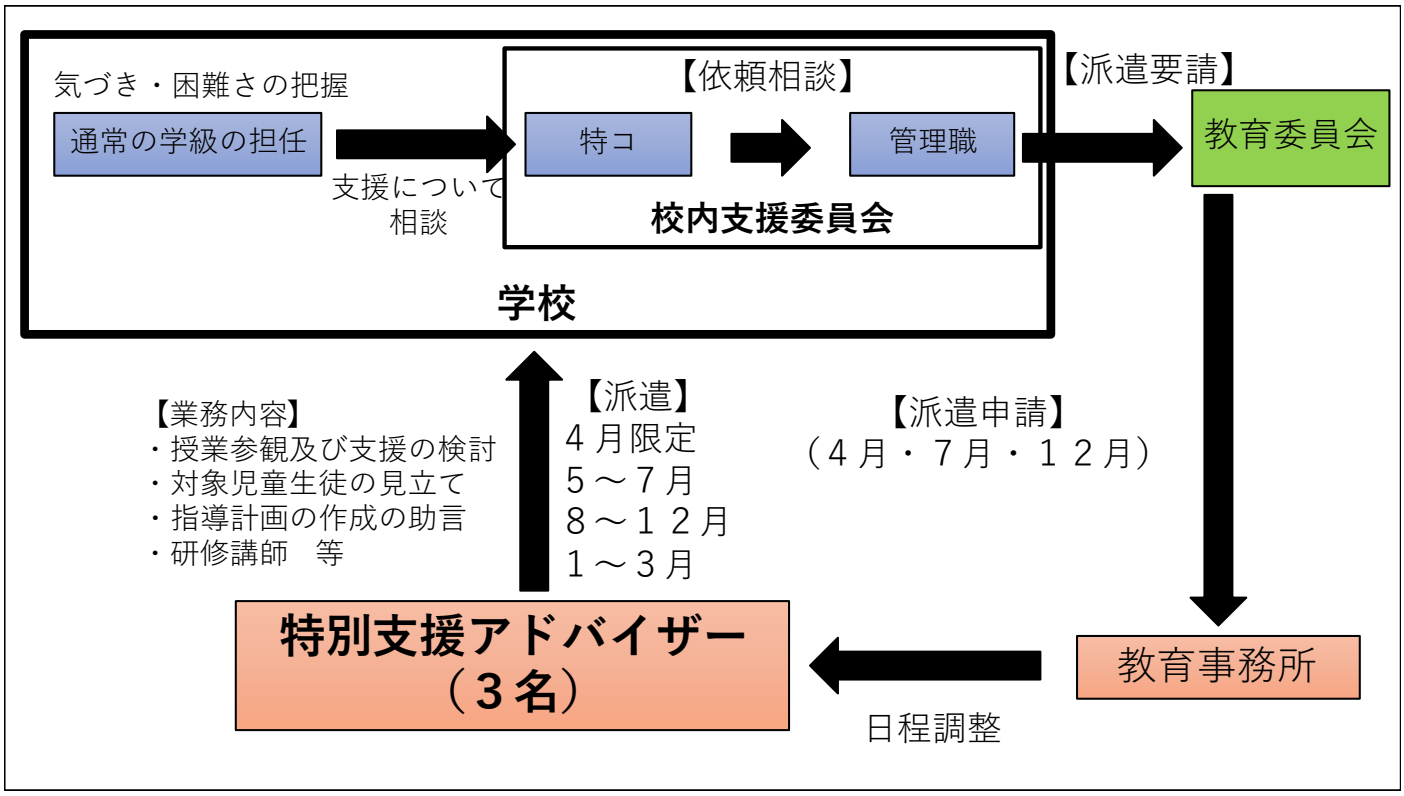
【参考・引用】

「特別支援教育指導資料令和２年度版」千葉県教育委員会

引継ぎは、する側、受ける側の双方が「環境の違い」を把握した上で、学習上又は生活上の困難さを改善･克服するための有効な支援と取り組んでいる指導（自立活動）について継続して行うことができるようにすることが大切です。

特別支援アドバイザー事業について

各学校では、学習上又は生活上の困難さを抱えている児童生徒が複数在籍していることが文部科学省の調査結果で明らかになりました。特別支援教育コーディネーター（以下、特コとする）を中心とした校内支援体制により適切な学習環境が整えられていると思います。しかし、対象となる人数が多かったり、特コの経験が不足していたりと各校の実情は様々です。その状況に対して、特別支援アドバイザーを活用することで、具体的な環境整備や支援体制について助言を受けることができます。そこで、各学校から特別支援アドバイザーの派遣までの流れをご説明します。



特別支援アドバイザーについては、各校・各市町教育委員会からの申請を受ける期間を経て、日程調整を行った後に派遣となります。4月については、新年度初めて特別支援学級担任又は通級による指導の担当になった先生を対象にして派遣を実施します。また、校内の特別支援教育に関する研修の講師として派遣することができます。（4月限定派遣）5～7月の派遣については、4月中に申請を受け付けることになりますので、お困りの場合は年度が明けてすぐに特コに相談をしてください。

これまでの派遣の活用についてですが、2～3日連続して複数の対象児童生徒を参観する場合が多い状況でした。また、月に1回の派遣を複数回実施して変容を見ることも効果的でした。

校内体制の充実、他機関との連携をスムーズにすることで児童生徒の学びの環境を整えることが大切です。ぜひ特別支援アドバイザーの派遣を検討してみてください。